

# 初心者の方へ ワンポイントアドバイス 秋の新苗の植え付け方

## 植え付ける前の植え付け場所の準備

植え付ける場所をまず決めます

大抵の果樹は日当たりがよく水はけの良いところが適地です。出来れば日中半日(朝の光が望ましい)は日光が当たるところが好ましいです。また、新苗は最初は小さくとも、これから10年20年と育ちますと大きくなります。途中で移植は難しいですからスペースが充分あるところを選びましょう。

植え付けの一週間前までに【下準備】をします

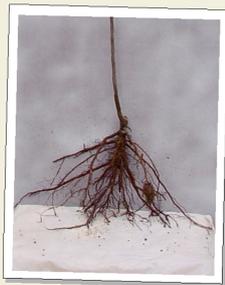
まず、直径50~60cm、深さ40~50cmの穴を掘ります。植え付け場所の土がふんわりと軟らかく、水もたまず、ふかふかの土の場合は穴の中の土を柔らかくするだけで下準備は完了です。

## 苗木の準備～根っこについて～

根っこが乾燥しないように保管します

苗木が届きましたら、すぐに植え付けない場合は根っこが乾燥しないように気をつけて保管します。

\*保管については別紙参照



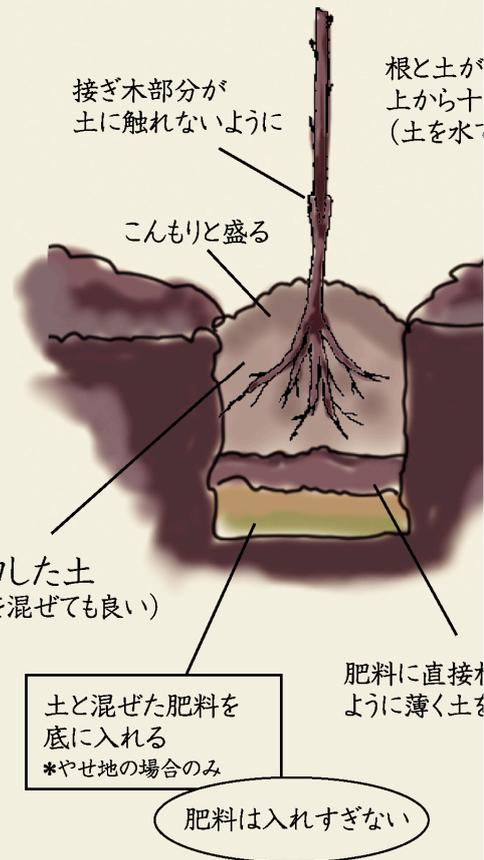
植え付けの日には、植え付けの1時間前くらいから水を張ったバケツに根っこをつけ、吸水させます。また、根っこが裂けている部分や、腐っている部分があればよく切れるはさみで除去しましょう。

## 苗木の準備～幹について～

植え付け時に主幹を切ると充実した枝が出ます

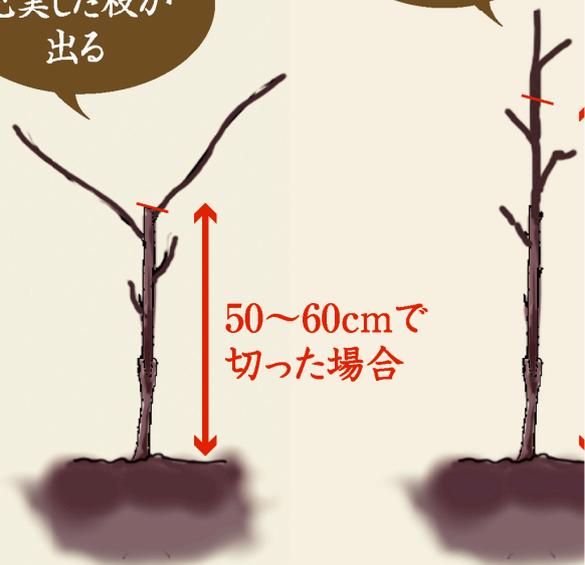
植え付け時には、苗木の接ぎ木部分から50~60cm程度の高さで幹をもたないようですが切り落とします。お届け時には少し長めに切っています。

植物には、茎の先端にある芽がもっとも発育が旺盛で、脇芽の発達をおさえるという「頂芽優性」という性質があります。長いままで植え付けますと、新芽の発育がしっかりと伸びてくれません。逆にいうと、「翌年の新芽が伸びてほしくない」「樹高はあまり高くない」場合は、切り戻しの長さを少しにすればいいわけです。



切ると  
充実した枝が  
出る

切らないと  
短枝が出る



## 肥料のポイント

植え付け時には基本的には肥料はいりません

硬い土、有機質がまったくない、固まっている、水はけが悪いなどの土の場合は、掘り出した土に腐葉土(バーク堆肥)を元の土の状況により1/3から1/2程度混ぜ込んで土をふかふかな状態にします。

また肥料分があまりにない場合は、根っこが触れない一番底に油かすや牛ふんを適宜穴の底に投入し、大スコップ1杯ほどの土とよく混合します。その肥料分のある土の上に、有機質を混ぜた土を上の部分には土を戻します。

\*果樹栽培に多くの肥料を最初に入れることは禁物です。枝葉ばかりが茂り実が付きにくくなります。そうかといって、肥料がないと育ちません。

※但し、粒がコーティングされている肥料でしたら少量なら入れてもらっても大丈夫です。



## 植え付け時のポイント

苗の接ぎ木部分を埋めないようにしましょう

果樹苗は大抵「接ぎ木」ですから、接ぎ木(テープ)部分が地中に埋もれないようにして下さい。根っこはしっかりと土の中に入るようにしましょう。

接ぎ木部分がある場合、接ぎ木部分が土に隠れると、接ぎ穂より根が出て、枝の伸びる勢いが強まり、実をつけにくくなります。(接ぎ木苗の場合)



## 参考: 幼木の仕立て方

\*標準的な樹型を目指す場合  
特別な樹型を目指すときはこの限りではありません



成長をおさえたい場合  
長めに切る

実を早く付けたいと、気持ちがいりましても、新苗から2年~3年くらいは枝葉を充実させることに力を入れ、実はならせないことをおすすめ致します。結実した場合は摘果しましょう。